

# グループホーム 牧水の丘

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		法人全体としての理念に基づき、地域密着型サービスの趣旨を踏まえた理念がつけられている。地域の中では一部活動等に参加、又ホーム内においては、馴染みの場所で馴染みの人々と「自分らしさ」の実現にむけ生活していくことが出来る様に支援することを事業所独自の理念としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念は皆がよく目に付く場所(玄関及び2階)に掲示しており毎朝のミーティング及び定例会などで唱和し共有を図っている。、理念の実践にむけて全職員日々の業務の中で真摯に取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ホーム内の目につきやすい場所(玄関入り口)に掲示すると共に、運営推進会議・家族会・地域活動参加時などでご家族や地域の方々に説明し、ホームの活動内容を理解していただけるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ご近所の方たちと、ゴミだしの時また散歩している時など気軽に挨拶を交わしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会に加入しており、行事等地域活動に積極的に参加し地域の人々との交流を図っている。

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行事等地域活動参加時や運営推進会議、見学者、電話での相談等にたいして、地域の中で気軽に相談・アドバイスが出来る場所として活動を進めている、今後も積極的に取り組んで行きたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上を図る為に、外部評価の意義は事業所・職員共に十分理解出来ている。指摘された改善点については全スタッフで話し合いを重ね、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。昨年の外部評価の結果も報告するなど、常に活動内容を公表するように心がけている。又、会議での意見を事業所に持ち帰り、情報の検討・共有を図りサービスの向上に活かすことが出来るように取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と密に連絡をとり、家族介護等の市町村事業など積極的に受託している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護、成年後見制度についてセミナー・研修等に参加し、研修報告で伝達研修を行い職員間の学習し、必要な場合は活用できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部セミナー・研修等に参加したり、後伝達研修、学習会を行い虐待防止について意識を高め事業所内での虐待又は帰宅された時など虐待について見過ごすことがないように注意し、虐待防止に努めている。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居又は解約の際は、入居契約や重要事項説明書をもとに、当ホームでのサービスについて十分な説明を行いご理解し納得していただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員・・・社会福祉協議会より月2回訪問、ご利用者から直接意見・不満・苦情等を聴き、事業所への橋渡しをしていただく。日頃から要望・苦情などあればいつでも伝えてもらえるように信頼関係を築いていくことに努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度送っているご家族への手紙で、その月の生活状況、健康状態、金銭管理などの報告をしている。また、体調等の変化ですぐに報告が必要な場合はその都度電話連絡をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に投書箱を設置し、折に触れ、苦情申し立ての窓口について知らせている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティング、月に一度の定例会、定期的に個人面談などで、意見・提案を聞く機会を設け反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者・ご家族の状況の変化、要望に合わせ、全体としてどのような業務内容にすべきかを常に検討しバランスを考え、勤務時間の変更、調整を職員の同意を得て行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者・職員の異動、退職等に関しては利用者へのダメージが最小限になるように、又馴染みの関係が出来るまでの間は既存のスタッフがフォローしている。ケアの基本をしっかり立て、ケア内容に大きな変化がないように職員全員で取り組んでいる。</p>		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては年齢・性別で排除することはない。事業所で働く職員に対して管理者は定期的に意見・提案等を聞き、精神的支えとなり、日々の業務において各々の能力が最大限に發揮できるように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の人権尊重に配慮したケアが行われるように、常に指導・教育に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に内部・外部研修を行っている。また、年間の研修については各人平等に機会が与えられレベルアップ出来るように配慮している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームと相互訪問し交流を図り、情報交換を行っている。又、各職種間でのネットワーク作りや勉強会に積極的に参加し質の向上に取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は4事業所合同の食事会を開催し、仲間作りや働きやすい環境づくりを工夫している。又、管理者は定期的に職員とのヒヤリングを行い意見・要望・提案を聞く場を設け業務に対する意欲や精神的な安定が図れるように工夫している。</p>		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員が得意分野を活かせるような役割分担をし、全体のバランスを考えながら、それぞれが目標や計画を立てて業務遂行している。今後も各人が向上心を持って働くことが出来るように取り組んでいく。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談に伺い、ご本人との会話を重ねる中で信頼関係を築き、困っていること、不安なこと、求めていることについて把握し出来る限り希望される生活を送ることが出来るよう、入居前に環境を整えるように努力する。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に御家族と面談を行い、希望されること・困っていること・不安に思っていることについて詳しく聴き、受け止め、御家族・ご本人が不安なく安心して生活できる場所であるとの信頼関係を築くことが出来るように努力していく。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族との話し合いの中で、最も必要としている支援・サービスを考慮し、状況に応じ対応するように努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気、徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を実施している。又、入居に際しては新しい環境に馴染めるように以前から使用していた馴染みのある、食器、寝具、家具などを個人の部屋に持ち込んでもらったり、必要な時はご家族との電話や面会で安心して頂けるように配慮している。		
また				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何気ない会話や行動の中で「気づきと思いやり」を大切に、共に過ごす日常生活の時間の中、お互いを思いやり支えあう関係を築いている。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来訪時に日常生活状況をお伝えしたり、行事参加のお願い、病院受診の付き添い、外出など職員と一緒にしていただくことによりお互いの関係に理解をふかめていくことが出来ており、一緒に本人を支えていく関係が築かれている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日常生活や心身の状態について月1回お手紙を差し上げ報告している。また、状況により連絡・報告し家族関係の改善、修復など、入所することにより日々薄くなる家族の絆を大切に支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう継続できるように、御家族と話し合いながら支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中や行事・レクリエーション等で、自然な形で入居者同士が会話を楽しみ、関わり合い助け合うことが出来るよう配慮を欠かさず、利用者同士の関係の支援に職員全員で取り組んでいる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されたご利用者様の近況をお尋ねしたり、御家族からの相談等に関してはニーズに応じ対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、お一人お一人の思いや希望を聞き取り意向の把握に努めている。また、把握したものをアセスメントし、ケアやサービスの提供に取り入れ「自分らしく」生活できるように支援している。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供(生活歴、生活環境等)してもらったり、ご本人との会話の中から把握に努めている。又以前に介護サービス利用されていた場合は関係機関からの情報提供もお願いしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常時様子観察を行い一日の過ごし方、心身の状態、有する能力の把握に努め全ての状況は記録として残し、職員間で周知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族との話し合いの中での課題・ケアのあり方などについて、関係者とケアカンファレンスを行い、介護支援専門員が介護計画書を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度モニタリングを実施、期間に応じての見直しを行っている。入退院でのご本人の状態の変化が生じた場合は本人、家族、必要な関係者との話し合いの中でプランの見直し・変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に記録しており、日々の様子、心身の状況、ケアの実践・結果などを詳細に記録し、職員で情報共有できている。また、実践や介護計画の見直し、次回の計画書作成などに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他事行所との連携を図り、必要な情報提供に努めている。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議、ボランティアの先生による生花教室の開催、消防署による防災指導、火災訓練、必要時は警察への応援要請、地域祭事に参加する等行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他の介護サービス事業者を紹介するなどの支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等において地域包括支援センターの方との意見交換や助言を頂いており、権利擁護、ケアマネジメントについての情報の提供をうけている。地域との連携についても情報・助言等を頂いている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に一度かかりつけ医の往診がある。また、健康状態に問題が生じた時には受診し、適切な処置を受けている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が北九州市指定の『物忘れ外来』である。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回利用者の心身の状態を良く知る看護師による訪問看護を受け、入居者の健康管理・医療相談等の支援をしている。		



## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には頻繁に面会に行っている。また、病院のソーシャルワーカーと連携を図りながら病院での治療方針、退院までの計画等を話し合うカンファレンスに参加している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期のケアの方針を作成しており、かかりつけ医や家族とも話し合いを重ね、方針の共有が出来ている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>急性期の処置についてはかかりつけ医の判断に任せ、ホームで出来ることは本人の様子を見ながら支援を行っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他施設等に転居される場合は、当ホームでの生活状況や健康状態について関係者に詳しく申し送りしている。また、話し合いの場に参加したり情報提供することにより、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣い、対応、記録等個人情報の取り扱いに関して、お一人おひとりのプライバシーに配慮した対応を行うように努めている。</p>		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	自己決定、自己選択が行えるように声かけし、言葉による意思の表出を促すことができるように、お一人おひとりに合わせ支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿いながらも、お一人おひとりのペースに合わせ、また希望の表出を促しながら、毎日の生活を穏やかに楽しく笑顔で生活して頂けるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に一度訪問美容院が来訪し、カットを行っている。また、馴染みの美容院に御家族とともに定期的に行かれる方もいらっしゃいます。日々の生活の中でもお化粧や身だしなみ等に気をつけています。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの心身の状態にあわせた献立や調理方法に組み、1ヶ月に一度は外食、ドライブでのおやつなどを楽しんでいただけるように支援している。できる方には準備・後片付け等のお手伝いをお願いし、会話を楽しみながら行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ等はお一人おひとりの希望に合わせて提供し楽しんで頂く様に支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録することで、お一人おひとりの排泄パターンを把握し、適切な時間に声かけトイレ誘導することにより気持ちよく排泄が出来るように職員全員で適切に対応している。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人に希望を聞き、入浴したい日、時間に合わせ入浴をして頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調により就寝時間の変化、また日中の仮眠など心身の状態に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて生活の中での役割(掃除・洗濯物たたみ・食器の片付け)の支援をしている。楽しみ、気晴らしなどは季節の行事、レクリエーション、外出ドライブ、散歩など希望に合わせて対応している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、外出時に欲しいものを自分で買えるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブはほぼ毎日行い、室内だけで一日過ごすことのないように支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	美術館や写真展、作品展、お買物、ご御家族と旅行に行かれている方もいらっしゃるの、今後とも継続できるように支援していく。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話や手紙のやり取りなどを行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・友人達の訪問を常に歓迎しており、気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気づくりをしている。また来訪時は個室でゆっくり会話を楽しんでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っており、全職員が身体拘束の行為の内容を把握しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室や玄関の鍵はかけていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の所在の確認をしており、居室で一人で過ごされるときも時折声かけをおこなうなどの安否確認をし、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの性格、心身の状態に応じて保管、かんりし、危険を取り除く取り組みをしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態は全職員が把握しており、緊急時の対応については常に手の届く範囲にマニュアルを保管している。		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急手当や緊急時の対応について訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っている。運営推進会議の時も常に協力をお願いし、自治会、近隣の方へ防災時の協力もお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族等が来訪時に心身の状態や昼夜の様子を説明し、起こりうるリスクについてに説明している。又、今後考えられるリスク等についても説明し、対応をご家族に相談し、抑圧感のない暮らしを送ることが出来るよう心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の中で体調の変化や異変の発見時には速やかに管理者に報告し、受診が必要であればすぐに対応する。また、それらの情報については個人記録・ミーティング記録により全職員が情報を共有できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用している薬について理解しており、服薬時も個々に対応し、安全に服薬できるよう努めている。また、服薬による症状の変化の確認に努めている。変化が見られるときはかかりつけ医に連絡し指示をうける。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため水分補給や食事の摂取量に留意しており、日常の中で適度な運動を行うように心がけている。また、		

## グループホーム 牧水の丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。お一人おひとりに合わせた支援をおこなっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状態に応じた食事量や内容、水分量を摂取していただいている。食事内容・量、水分摂取量は記録しており体調の変化に合わせた支援が行えるように心がけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、全職員が予防・対応の仕方を熟知しており、日常業務の中で感染予防に取り組んでいる。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の取り決めがあり、実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内外において草花を絶やすことなく配置し、誰もが和むことが出来る様な空間の環境整備に心がけている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は家庭的で季節感を採り入れ、居心地よく過ごしていただく為の工夫をしている。		

## グループホーム 牧水の丘

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に面した場所にソファ、小テーブルを配置し集団の中でも気楽に一人で過ごせたり、気の合う仲間と談笑し過ごすことが出来るように配慮している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込んだ、ベッド、タンス、仏壇等が各自の居室にある。これら馴染みある使い慣れた物、好みのものなどに囲まれ居心地よく過ごせるように、ご本人と相談しながら工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中状況に応じ適切に換気を行い、温室時計を確認しながら快適な室内空調管理をし、ご利用者の状況に応じ細やかな対応を心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活を送ることが出来るように物理的環境を整えている。(段差のない廊下、照明器具の設置、要所への手すりの設置、椅子の滑り止めを使用)		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にカレンダーや時計があり、時間や日にちの見当識に配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯ものを干したり、花壇や鉢植えの水やり、中庭のベンチで自由に過ごせる環境づくりに取り組んでいる。		

グループホーム 牧水の丘

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



## グループホーム 牧水の丘

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小高い丘の上であり、静かな環境に包まれ生活されている。毎日の生活が刺激の少ない単調なものにならないように、お一人おひとりの出来る力、体調、思いに合わせ、あたり前の毎日があたり前に、そして自分らしく、楽しく、穏やかに、過ごすことが出来るよう、お一人おひとりに合わせた気づきと思いやりを大切にしています。